

交通臨海部活性化特別委員会
令和4年3月2日
まちづくり推進部 資料12番
所管 都市計画課

東京港第9次改訂港湾計画に向けた長期構想について

1 趣旨

東京都港湾審議会が取りまとめた「東京港第9次改訂港湾計画に向けた長期構想」の中間まとめに対して、11月から12月にかけてパブリックコメントが実施された。パブリックコメントで提出された意見を踏まえ「東京港第9次改訂港湾計画に向けた長期構想」が取りまとめられ、令和4年1月31日に開催された「第98回 東京都港湾審議会」において、答申されたので、その内容について報告する。

2 パブリックコメントの結果の概要

別紙1のとおり

3 長期構想の概要

別紙2のとおり

パブリックコメントの結果の概要について

(1) 意見募集期間

令和3年11月18日(木)から同年12月17日(金)まで

(2) 意見提出の状況

提出された方の総数13者、意見提出の総数54件

(3) 御意見の概要と見解・対応【抜粋】

【物流】世界とつながるリーディングポート (29件)

御意見の概要	審議会の見解・対応
東京港が都民にどのように貢献しているのか、分かりやすくしてほしい。	図表をわかりやすく修正
最先端技術を活用したコンテナ物流拠点の早期実現を期待する。	コンテナターミナルの機能強化に加え、「ヒトを支援するAIターミナル」の実現等を記載している。
快適で働きやすい環境の実現において、女性の活躍や高齢者雇用の高まりへの配慮は重要	快適で働きやすい環境の実現に当たり、女性・高齢者に関する記載を追記

【防災・維持管理】信頼をつなぐレジリエントポート (6件)

御意見の概要	審議会の見解・対応
気候変動に対応した海岸保全施設は重要	長期構想の中に記載済
平均海面水位の上昇への対応において、防潮堤により海岸線から都民を遠ざけないでほしい。	景観や親水性に配慮することを追記

【環境】未来へつなぐグリーンポート (10件)

御意見の概要	審議会の見解・対応
カーボンニュートラルポートの実現に向け、東京港がリーディングポートとなることを期待	カーボンニュートラルの実現に向けて、次世代エネルギーの利活用、モーダルシフト等を記載している。

【観光・水辺のまちづくり】にぎわいをつなぐゲートウェイ (5件)

御意見の概要	審議会の見解・対応
東京港の必要性や魅力を情報発信していくべき	情報発信・PRについて追記

【その他】(4件)

長期構想とは

東京港を取り巻く情勢の変化を踏まえ、おおむね20年後（2040年代）の東京港の将来像を明らかにし、次期改訂港湾計画を策定するための指針とするもの

長期構想の基本理念

進化し続ける未来創造港湾 東京港 ～スマートポートの実現～

常に港の新陳代謝を進め、新たな価値を創造し、国際競争力が高く進化し続ける港

東京港の目指すべき将来像

物流 世界とつながるリーディングポート

- ユーザーに選ばれる競争力が高く使いやすい港
- 最先端技術の積極的な活用による効率性の高い港
- 適切な機能配置と運営により港湾空間を効率的に活用

防災・維持管理 信頼をつなぐレジリエントポート

- 災害時にも物流活動を維持できる強靱な港
- 自然災害や気候変動等から都民の生命と財産を確実に守る
- 既存ストックを適切に維持し将来にわたり港湾機能を発揮

環境 未来へつなぐグリーンポート

- 脱炭素社会や循環型社会の実現に港湾エリアが貢献
- 水と緑のネットワークの拡充、海域環境の保全・改善

観光・水辺のまちづくり にぎわいをつなぐゲートウェイ

- 水辺や多様な機能の集積を生かし、人々が訪れるゲートウェイとして、にぎわいと活力に満ちている

東京港第9次改訂港湾計画に向けた 長期構想 概要版

施策の方向性

物流 世界とつながるリーディングポート

コンテナ・ユニットロードターミナルの機能強化

- ▶ コンテナ貨物量の増加への対応
 - 新規整備 (Y3、Z1 機能拡充)**
 - 再編整備** (岸壁増深、GC大型化、ヤード拡張)
- ▶ モーダルシフト等によるユニットロード貨物量の増加への対応
 - 新規整備 (中防内 機能拡充)**
 - 再編整備** (岸壁増深、岸壁前出し、ヤード拡張)

輸出入の拡大に向けた貨物の取り込み

- ▶ **フィーダー船が優先的に**利用できるふ頭を整備
- ▶ **外貿ふ頭と内貿ふ頭、鉄道等とのシームレスな接続**による輸送、積替えを円滑化
- ▶ 内航航路ネットワークを活用した**国内貨物の取り込み**により**農林水産品・食品等の輸出を促進**



【水深】 -16m～
 【延長】 約1,700m (Y2～Z1連続バース)
 【奥行】 500m (全バース)

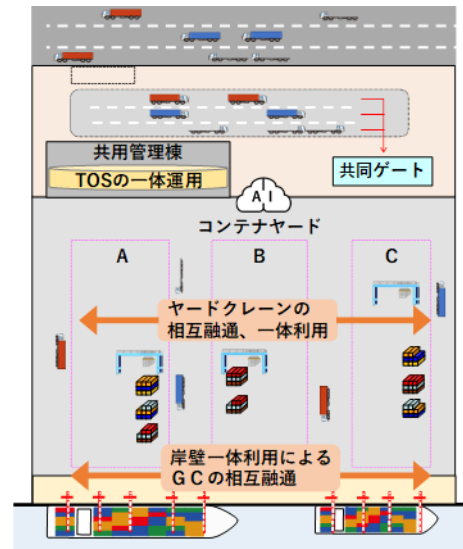
東京港の機能強化イメージ

2040年代の貨物量見通し

- 外貿・内貿コンテナ貨物量： 570万～ 670万TEU (2019年実績： 501万TEU)
- ユニットロード貨物量： 1,350万～1,500万トン (2019年実績： 1,114万トン)

最先端技術を活用した効率的なコンテナターミナルの実現

- ▶ 「サイバーポート」の導入等により**港湾手続の電子化**を図り、ゲート処理時間やヤード内荷役作業など、貨物のリードタイムを短縮
- ▶ **荷役機械の高度化**による貨物の効率的な処理
- ▶ TOSの統一化等による**ターミナルの一体利用**により、ヤードスペース等の利用を最適化
- ▶ 海上交通の安全性向上や船員の労働環境の改善等に向け、**自動運航船の就航**を可能にする施設を整備



ターミナルの一体利用イメージ

TOS：ターミナルオペレーションシステム
 GC：ガントリークレーン



荷役機械の遠隔操作イメージ

出典：「AIターミナル」の実現に向けた目標と工程 (H31.3) (国土交通省)



自動運航船イメージ

出典：DFFAS CONSORTIUM

東京港第9次改訂港湾計画に向けた 長期構想 概要版

施策の方向性

防災・維持管理 信頼をつなぐレジリエントポート

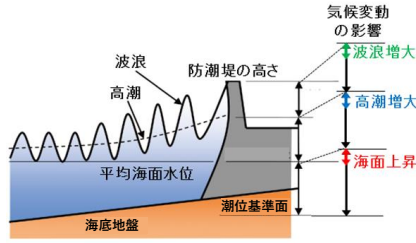
災害時にも物流活動を維持できる強靱な港の構築

- ▶ 首都直下地震等においても物流機能を確保するため、新規ふ頭の整備や既存ふ頭の再編整備に合わせ**耐震強化岸壁、免震クレーンを整備**

気候変動に適応し都民の生命と財産を確実に守る

- ▶ 今後の気候変動による**平均海面水位の上昇等の影響を踏まえ**

海岸保全施設を整備



耐震強化岸壁・免震クレーン 気候変動による平均海面水位の上昇

出典：「気候変動を踏まえた海岸保全のあり方検討委員会資料」（国土交通省）より作成

観光・水辺のまちづくり にぎわいをつなぐゲートウェイ

クルーズ客船の寄港ニーズへの対応

- ▶ 寄港ニーズ等を踏まえ東京国際クルーズターミナルの機能を拡充

舟運（水上交通）等による回遊性の向上

- ▶ 官民が連携した船着場の整備、にぎわいの創出を推進



東京国際クルーズターミナル

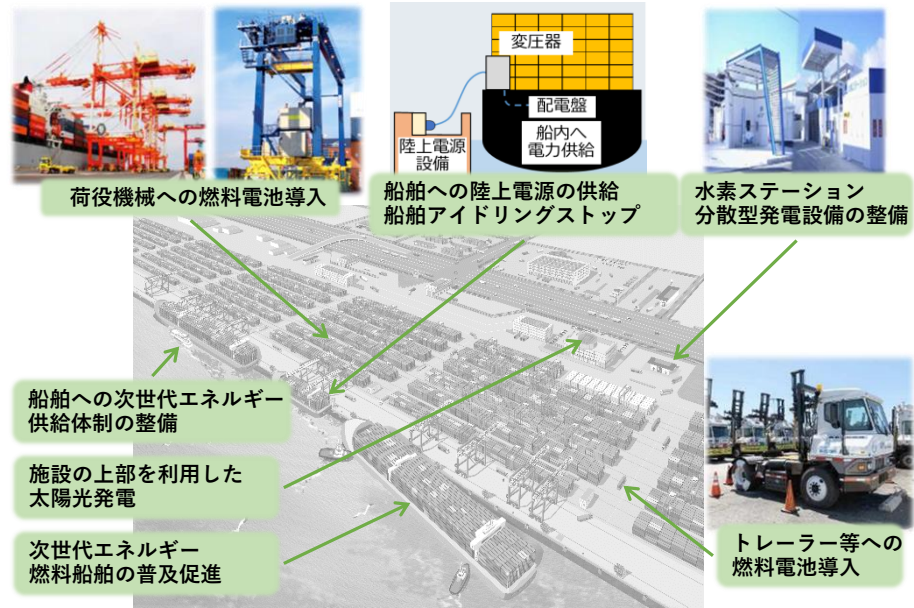


水上バス

環境 未来へつなぐグリーンポート

カーボンニュートラルの実現

- ▶ 荷役機械や船舶などについて、**脱炭素化の取組を推進**



カーボンニュートラルの取組イメージ

出典（写真）：「カーボンニュートラルポート（CNP）の形成について」（R3.6）（国土交通省）

豊かな海域環境の創出

- ▶ 多様な生物の生息の場、**ブルーカーボンの活用**の場としての干潟や藻場等を保全・再生



藻場（ワカメ）

出典：水産庁HP